

日時 : 令和3年12月23日(木) 18:30~19:30

会場 : 高津高校校長室

出席者 : <委員> 森田 英嗣(大阪教育大学教授・副学長)

(敬称略) 新崎 国広(大阪教育大学教授)

竹村 伍郎(地域情報誌「うえまち」編集局長)

浅田 千鶴(本校同窓会副会長)

川端 秀治(現PTA会長)

上杉 伸一 (前PTA会長) 【欠席】

<事務局> 上田 信雄(校長)、佐保田 真一(教頭)、山崎 義文(事務長)、

伊勢田 佳典(首席)、山口 優(首席)、森本 薫(記録)

1. 学校長挨拶

2. 学校からの説明

「学校経営計画」の進捗状況について

- ・学校行事として、修学旅行は2月に変更した。
- ・体育祭と文化祭の両方とも10月の初めに変更した。
- ・9月に1人1台端末が導入され、現在生徒全員にChromebookを配付した。プラットフォームとしてGoogle Workspace for Educationを使用。
- ・京都大学、内田洋行と共同でLEAF system(教育支援AI)の共同研究を行っている。
- ・英語の能力向上に関して、例年のKITEに加え、大阪国際交流センターでGULSを行っている。
- ・海外の科学先進校等との交流は、台湾に訪問する予定だったが、コロナ禍のためで訪問できなかったが、Zoomを利用した交流に変更。その後、台湾、韓国、フィリピンの高校が参加してのフォーラムを1月10日(月)に総勢100名(本校40名)予定している。
- ・2年生の体験型進路学習は10月に実施。
- ・高津キャラバン隊によるボランティアも限定的ながら実施。自治会活動も多方面にわたって活動した。
- ・教育相談研修として保護者対応の講演会を含め、例年通りの研修を行った。
- ・校内で情報共有を進め、働き方改革の中で校務の効率化を進めている。
- ・他校種との連携として地元の高津中学校と共同研究を計画している。
- ・大阪工業大学と今までの交流のほかに、教科「情報」に関して専門的な分野での連携を進めている。

<質疑応答>

質問 : 国際交流として以前は現地に行っていたが、コロナ禍でZoomによるオンライン交流となっているが、withコロナとして、2つの交流方法についての分析はどうなっているか。

回答 : 現地交流をZoomによるオンライン交流とすることで参加する側だけでなく、受け入れ側のハードルも低くなった。しかし対面には対面のメリットがあり、現地に行き、その雰囲気に触れることは大切にしていきたい。機会を増やすことと中身を深めるという両面でのアプローチを進めたい。

質問：新高津メソッドの構築とあるが、このメソッドが構築された状態というのは、どんな状態なのか。どうなれば目標が達成されたと判断するのか。

回答：観点別評価（知識・技能：思考・判断・表現：主体的に学ぶ力＝1：1：1）が来年度から導入される。高次元で達成している本校にとって、新しいことを取り入れながら進めていく事こそが重要である。

質問：目標として遅刻者総数を2000件以下にしたいとか、教職員向け学校教育自己診断の各分掌や学年、教科などの円滑な連携等に対する肯定的意見が75%を目標とされている。現時点ではほぼ達成しているが、こういった数値目標に対するとらえ方について説明してほしい。

回答：目標に関しては十分達成しているので、守りに入っている部分もある。より高い目標を設定することは大切だが、学校として数字を達成することより、本校が大事にしている事に先生方の気持ちを注いでもらいたい。

意見：中期目標の「確かな学力をふまえ、高い志を育み」という部分は大切で、学力はあってもそれをどのように展開していけるかという実践力がこれからは求められていく。今年も大学研究室訪問が実施され、テーマは「子供の貧困と連鎖」ということだったが、調べ学習も丁寧になされている。その問題が起こった理由や、その子供たちの背景についてグループワークの中で話していくことは高校生には刺激になっている。

回答：大学研究室訪問はユニークな取組みであり効果も上がっています。

質問：大学でもコロナ禍の中で抑うつ的な状況になる学生が増えている中、高校ではそんな状況に対してどんな対応がとられているか。

回答：コロナと関係なくGLHSの学校の中で共通の問題として挙がっている。本校においては出欠等、早期にその兆しを見つけて担任と共有し、保健室でも把握している状況をフィードバックし、フォローするようにしている。また教育相談やスクールカウンセラーを活用し、必要な場合はケース会議をもつことで対応している。

質問：職場訪問に関して、現在は職場によってはリモートになり、大きく変わった所もあり、働き方自体が急激に変化している。来年の訪問先に関して生徒に希望職種を聞き取って、見直されたほうがいい。またGULSに関しても、高津サイドで主導的に意見を出したほうがいい。

社会体験について、学校サイドからボランティアの提示を行うより、主体的に生徒が継続的に地域に入っていく、地域で望まれている方向性を共有して1つの事業として成り立つような事が出来れば、地域の中での高津高校の位置づけが変わってくるのではないかと考えている。

回答：職場訪問については、企業でもその時々状況に応じて働き方が変化している。生徒の希望についても全員が満足しているわけではない。ただ参加生徒が単なる職場を体験するというのではなく、「働くとは？」という課題をもってインタビューを行い、その活動を通して自分を高める事がこの体験の本来の目的である。社会体験を含め、やらされる勉強や体験ではなく、生徒のモチベーションを育てるような状況を作り出したいと考えており、可能な範囲で対応していきたい。GULSについても今年行った手ごたえから、もっと多くの生徒に参加してほしいという希望をもとに教材の研究を進めていきたい。

質問：研究室訪問の件で、同窓生から研究室訪問で、「なぜ私の研究室を選んだのか」と質問した時に、生徒の第一希望ではないため、本人のモチベーションが下がり、受け入れ側もやりがいなくなるのではないかと。高津高校は学生の振り分けにどのようなやり方を行っているのか。行先の候補をすべて紹介し、それぞれがどんな研究をしているの

かホームページで学生たちが調べ、興味あるところを第3希望までとり、それをもとに学生を振り分ける方法をとれないのか。その点でもっと効果的な方法を同窓会から提案してほしいという報告を受けている。

回答：職場訪問同様、必ずしも自分の興味のある分野でないにしても、研究するということが、その手法や過程が大事で、大学でやった研究がそのまま仕事につながるのではなく、研究室で学んだ手法がほかの分野でも役に立つという観点で行っている。実際には文系、理系の学部で選択し、研究室訪問先を振り分けています。数に制限もあるので、自分の希望とは違う所を訪問することもあるが、適当に振り分けているわけではない。また事前課題に取組み研究室のホームページを見て自分たちで調べてから参加している。本来は学ぶ姿勢を具体的に感じるということがメインの体験であり、オープンキャンパス的な企画ではない。

質問：希望に沿った進路実現に向けて日々勉強している中で伸び悩んでいる生徒へのフォローをお願いしたい。メンタルヘルスに関して生徒だけでなく教職員に関して学校組織として気を配っていただきたい。また地域に開かれた学校づくりということで、高津高校の魅力を発信していただきたい。また文化と伝統の継承に関して状況をお話していただきたい。

回答：コロナ禍の中で全生徒と教職員にPTAからマフラータオルを配布していただきました。進路実現に関しては「あきらめないで自分の思いは最後まで貫こう。」をモットーに実現に向けて力を伸ばしていこうとする中でしんどくなる生徒もいる。そのあたりのフォローもしっかりしていく。教職員もやらされているという気持ちが強くならないよう、授業に限らず生徒の気持ちに伝えるべく、やってあげたいという気持ちになれるような職場になることが望ましい。高津としての文化や伝統の継承において、特に体育祭のファイヤーフォークができていない。また4月の勉強合宿もここ2年間できていないが、日頃の生活に関してはコロナ禍の影響は少なく、学校への帰属意識も強いです。

3. その他

同窓会では同窓会報やホームページで講演者を募集し、多くの同窓生から申し込みがあった。学校主催の講演会だけでなく同窓会主催の講演会も企画している。

4. 事務連絡

第3回学校運営協議会の日程について

令和4年 3月下旬（予定）